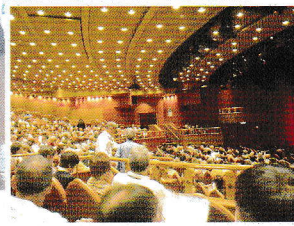
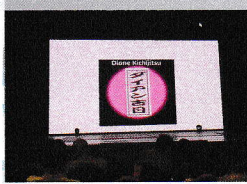




↑ダイアン吉日さんと



↑シアター全体



シアターショー



↑船上プール



↑展望風呂

夜は、あらゆるスペースで演奏が聞け、ロッキンロール・パーティーでは、久しぶりにツイストを、大きなシアターではミュージカル・落語・演奏会など連日ショーがあり、飽きることはなく。英語落語のダイアン(大安) 吉日さんは本当にフレンドリーでした。

展望風呂は銭湯の雰囲気、流れゆく海をみながら、大きな風呂でゆったりと過ごせたのは、温泉好きの私にとって至福の時でした。

道中、秋田港・青森港・境港・韓国(釜山)に立ち寄り、それぞれ観光を楽しみましたが、「土佐のよさこい踊り」「徳島阿波おどり」の予定が、台風がきていたので、外洋に出るのは危険という判断から、航路を変更し、瀬戸内海を巡り、神戸に立ち寄ることになりました。これもまた楽しく、負担なく行く先が変更できる船旅の良さを感じました。



●下船して

知ったのは下船2日前(しかも一人一曲ということ欲求不満)など、その魅力を満喫できなかったのは心残りでした。

しかも、日本人より外国人が多いツアーで、得意のジェスチャー(?)でなんとか交流しましたが、西田さんに、もう少し英会話のご指導してもらえたらな! とも反省した次第です。(笑い)

初めてのクルーズで、余裕がなく、カラオケがあるのを

### ダイヤモンド・プリンセス号

全長: 290m  
 建造所: 三菱重工長崎造船所  
 船種: クルーズ客船  
 建造費: 5億米ドル  
 高さ: 54m (水面上)  
 URL: <https://www.princesscruises.jp/>

## BOOK 赤毛のアン

原題は「Anne of Green Gables」。カナダの作家L・M・モンゴメリがプリンス・エドワード島を舞台に書いた小説。孤児だったアン・シャーリーを手違いから養子にするマシューとマリラ・クスパート兄妹。彼らとアン、そして村の人々との繋がりを通し、少女が成長していく様が描かれています。はじめて読んだのは小学生のときでした。目線はもちろんアン。厳しいマリラや、お節介な隣人レイチャル・リンド夫人に反発していました。大人になって読み直すと目線は逆転…。それぞれの年代で楽しめ、何度も読みたくなる一冊です。(佐々木直子)



※写真は手元にある本の装丁。「アン青春」～「アン娘リラ」まで揃っています貸出可能。

## DVD わたしの1冊

### 羊たちの沈黙

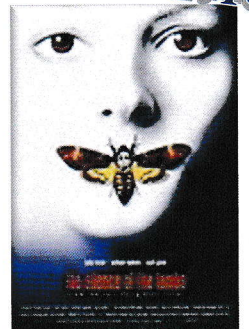
アカデミー賞主要5部門受賞、と書けば想像がつかますね。下手な解説は不要!

サイコ、ホラーが苦手な筆者が推奨する唯一のその類の作品でもあります。

若くて初々しいジョディ・フォスターがいいし、アンソニー・ホプキンスの怖さたるや! 二人の出世作でもあります。ぜひ一見を! 同名の原作小説あり。

(井口征男)

## DVD わたしの1冊



1991年アメリカ  
 監督: ジョナサン・デミ  
 原作: トマス・ハリス  
 主演: アンソニー・ホプキンス/ジョディ・フォスター

## @無縫会



### 箱根吟行報告

9月18日2台の車で出発。予報どおり途中は雨であったが、何故か現地に着いた途端雨は上がった。幸先良しだ。

ランチ後予定通りに仙石原吟行に向かうも、安全を考えて姦子別荘界隈と宿舎のキャンソンの箱根館の庭園の吟行に急遽変更。それでも芒、吾亦紅、女郎花に一定早い高原の秋を満喫。

その後の句会では雨や富士山、芒などを詠み込んだ名句(?)が続出。そのなかからいくつかを紹介しよう。

素っ気なく富士を隠して  
秋の雨  
穂を解きてしろがね揺らす  
芒かな  
山の霧聖と俗とを分ちかけり



代表：田中喜美子（F班）

## @麻雀



自在なゲームで脳の活性化を

技術だけでもなく、運だけでもなく、組み合わせにも左右される——麻雀は、室内遊戯のなかでも格段に複雑で、奥深いゲーム。認知症予防に役立つといわれる所以です。

初心者からベテランまでが入り混じって、毎月、対戦を楽しんでいます。

賭けない、飲まない、喫わないがモットー。

半年ごとに集計し、成績上位者を表彰しています。



代表 佐柄木俊郎（F班）

## @カラオケ



上手・下手は関係ない  
親睦を深めましょう

大きな声を出すことは、健康にも良いので、歌の上手い、下手は関係なく歌いながら仲間との親睦を深めていきたいとの気持ちです。

しかし、歌う人と聞く人になりがちなので、「会話」中心を目的にした「ランチも」と言うことになりました。

例会後、「ランチ」そして「カラオケ」として行っています。

「ランチ」のみの参加も歓迎しています。気楽に参加の連絡をお待ちしております。



代表 斉藤和彦（D班）

## 季節のうた

自分の感受性くらい

茨木のり子

ばさばさに乾いてゆく心を  
ひとのせいにはするな  
みずから水やりを怠っておい

気難かしくなってきたのを  
友人のせいにはするな  
しなやかさを失ったのはどちらなのか

苛立つのを  
近親のせいにはするな  
なにかも下手だったのはわたくし

初心消えかかるのを  
暮らしのせいにはするな  
そもそもが ひよわな志にすぎなかつた

駄目なことの一切を  
時代にせいにはするな  
わずかに光る尊厳の放棄

自分の感受性くらい  
自分で守れ  
ばかものよ

## 編集後記

今年で3回目となる「文化祭」は、多くのタレントが所属する「あ・そうかい」恒例行事になりました。下校時間ギリギリまで準備をしていた学生時代の文化祭。あのエネルギーを勉強に注ぎ込んでいたらもう少しまともになっただけかもしれない。でも思い出は大切な財産。四十、五十は漬垂れ小僧、六十、七十は働き盛り、九十になって迎えが来たら、百まで待てと追い返せ。来年もまた、楽しいレポートが出来ることを期待しています。